

鶏を食すれば、あしき虫を生ずると見えたる者は、廣き園の中に、稠しくかきをし廻し、狐狸犬猫の入ざる様に堅く作り、戸口を小さくしたる小屋を作り、其中に堀を數多く作りて、高下それぐの心に叶へし、尤わらあくたを多く入置て、巣を作らすべし。園の一方には黍稗を粥に煮てちらし置、草を多くおほへば、やがて虫多くわき出るを餌とすべし。是時分によりて、三日も過すして虫となる、其虫を喰盡すべき時分に、又一方かくのごとく、年中絶す此餌にて養へば、鶏肥て卵を多くうむ物なり、園の中を二つに玄きりをくべし。又雜穀の粃、其外人牛馬の食物ともならざる物を多く貯へて、はみ物常に乏しからざる様にすべし。卵も雛も繁昌する事限なし、甚利を得る物なれども、屋敷の廣き餘地なくては、多く畜事はなり難し、凡雄鳥二つ、雌鳥四つ五つ程畜を中分とすべし。春夏かいわりて廿日程の間は、ひな巣を出ざる物なり、飯をかはかして入れ、水をも入れて飼立べし。甚多く畜立るは人ばかりにては、夜晝共に守る事なり難く、狐猫のふせぎならざる故能き犬を畜置てならば守らすべし。但かやうにはいへども、農人を費し妨多し、つねのものは、是をわざとしてもすぐしがたし、志かれば、多くかふ事は、其人の才覺によるべし。

〔源平盛衰記〕三十二、四宮御位事

七條修理大夫信隆卿ハ、白鶏ヲ千羽飼ヌレバ、必其家ニ王孫出來リ御座ト云フ事ヲ聞テ、白鶏ヲ千羽ト志シテ飼給ケル程ニ、後ニハ子ヲ生孫ヲ儲テ、四五千羽モ有ケリ。夥ナドハ云計ナシ、鳥羽、田井、西、京、田ナドニ行テ稻ヲ損シ麥ヲ失フ、懸リケレバ、信隆ノ雞トテ入モテアツカヘリ。此ニ彼コニシテ打殺ケレ共生子ハ多シ、七條八條ニ充满テ、盡ベキ様モ不見ケリ。誠ニ其驗ニヤ有ケン、四宮○鳥羽後位ニ即セ給フ。

〔宣禁本草坤諸禽〕鶏卵 甘微寒、葱蒜同食氣促生瘡、鱉同食異病、韭子同食節風和魚肉食心痕生、卵白微寒、治目熱赤痛、除心熱煩滿、主小兒下泄、產難胞衣不下、卵黃除熱治火灼爛瘡、卵中白皮、主久效結